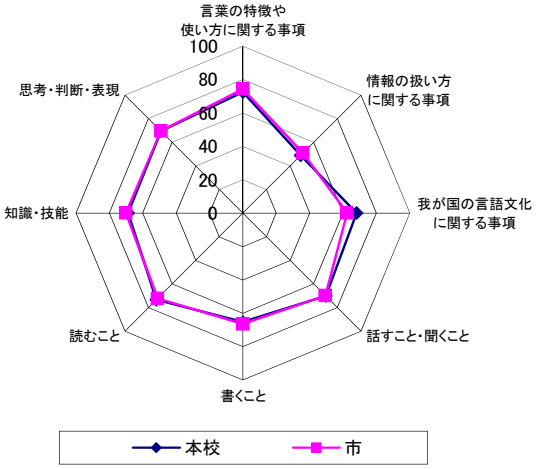
宇都宮市立岡本小学校 第６学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.5	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	48.9	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	68.1	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	70.2	69.9	69.7
	書くこと	65.2	66.4	64.6
	読むこと	73.4	72.3	71.0
観点別	知識・技能	68.8	70.1	70.0
	思考・判断・表現	69.5	69.5	68.2

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

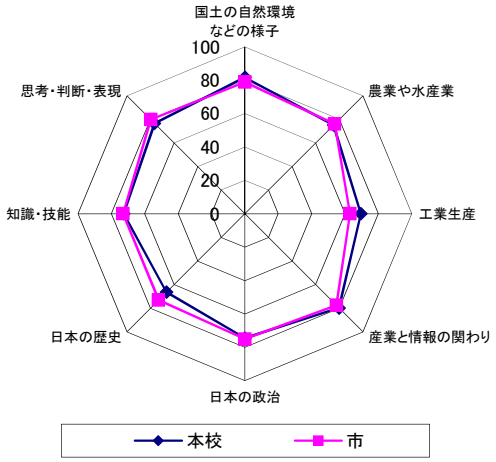
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	領域の平均正答率は，市の平均正答率と比較すると1.8ポイント下回っている。 ●特に尊敬語に関する問題の正答率が市や全国の正答率より14ポイント以上低く，尊敬語を正しく使うことに課題が見られる。	・授業のみならず，家庭や地域と連携して日々の生活の中で場に応じた言葉の使い方ができるような声掛けを継続的に行っていく。
情報の扱い方に関する事項	領域の平均正答率は，市の平均正答率と比較すると，2.0ポイント低くなっている。 ●説明文の内容を読み取り，要点を抜きだす問題では平均正答率が市の平均正答率より1.4ポイント高いが，指定された内容を漏れなく取り入れる問題では5.2ポイント低くなっており，情報をまとめることに課題が見られる。	・今後も，国語以外の教科においても，資料を扱う学習を行っていく。また，取り出した情報をまとめる活動を増やしたり，まとめた内容が的確であったかの交流・検討ができるような授業を進めていく。
我が国の言語文化に関する事項	領域の平均正答率は，市の平均正答率と比較すると5.7ポイント高くなっている。 ○漢字の由来について68.1%の児童が正答しており，字形をなぞるだけではなく，成り立ちや部首などと関連させて理解することができていると言える。日頃より，辞典や１人１台端末を使い，成り立ちに触れたり，親しんだりする学習を進めている成果と考えられる。	・今後も日常的に国語辞典や漢字辞典に親しむ学習を継続していく。さらに１人１台端末を活用し，様々な言葉に触れる機会を増やしていく。
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は，市の平均正答率を0.3ポイント上回っており，ほぼ同じとなっている。 ○話し手の目的に応じて，話の内容を捉える問題の正答率は１００%でありよく定着しているが，互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合いをする問題の正答率は２３．４%となっており，理解したことを表出することに課題が見られる。	・今後も，国語の授業に限らず，日頃から自分の考えと比較しながら相手の話を聞く習慣を身に付けられるよう指導していく。また，考えたことをまとめて自分の言葉に表していく場を増やしていく。
書くこと	領域の平均正答率は，市の平均正答率と比較すると1.2ポイント下回っている。 ●指定された構成で文章を書いたり，自分の意見を明確にしたりする問題では，市の平均正答率を上回っているが，読み取ったことを文章に書き表すことへの課題が見られる。	・授業の中で，伝えたいことを端的に書き表す課題を与えて書く経験を積ませる。また，国語で学んだことを他教科でも活かしていくことで，書く力の向上を図っていく。
読むこと	領域の平均正答率は，市の平均正答率と比較すると1.1ポイント高くなっている。 ○特に物語の内容を読み取る問題では，いずれも3ポイント以上市の平均正答率を上回っており，登場人物の心情や行動を捉えることができている。	・学校図書館の活用や読書時間の確保をし，物語文・説明文ともに読む機会を確保していく。また，読んだ本の内容を交流する場を設け，説明文の構成などにも目が向けられるようにしていく。

宇都宮市立岡本小学校 第６学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	81.7	78.9	75.4
	農業や水産業	75.2	76.1	71.2
	工業生産	69.5	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	79.8	77.6	59.7
	日本の政治	74.5	75.0	79.3
	日本の歴史	66.5	73.1	72.8
観点別	知識・技能	72.6	73.0	71.4
	思考・判断・表現	76.6	79.8	71.9

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

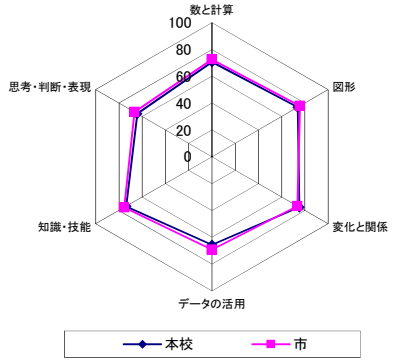
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は，市と比較すると2.8ポイント高い。 ○日本の周辺の海洋名については正答率が91.5%と市よりも4.2ポイント高く，日本の地形の名称や位置については70.2%と市よりも20.5ポイントも高い。 ●国旗を見て国土を選ぶことについては，85.1%と市と比較して5.1ポイント低い。	・国旗や自然，国土などを関連付けながら，多角的な見方を身に付けさせるために地図帳のさらなる活用を図る。
農業や水産業	平均正答率は，市と比較すると0.9ポイント低い。 ○日本の農業人口をめぐる課題についての正答率は，85.1%と市と比較して1.8ポイント高い。 ●米の生産量について表を読み取る問題については，59.6%と市よりも2.1ポイント低く，魚の流通にかかる費用に関する問題では，80.9%と2.3ポイント低い。	・表の読み取りはできているが，読み取ったことを活用することに課題が見られるので，資料を読み取った後に他の資料と関連付けて考えたり，自分で読み取ったことを自分の言葉で表現したりする活動を積極的に取り入れていく。
工業生産	平均正答率は，市と比較すると6.6ポイント高い。 ○日本の鉱山資源の輸入に関する問題の正答率は89.4%と市と比較して24.3ポイント高い。 ●自動車工場の作業工程に関する問題については，63.8%と市と比べて7.1ポイント低い。	・教材の工夫をしコロナ禍で体験的な学習が厳しい中であっても，一人一台端末等を活用して，児童自らの調べ学習が充実するように授業を展開していく。また，専門用語の確認も併せて行っていく。
産業と情報の関わり	平均正答率は，市と比較すると2.2ポイント高い。 ○インターネットを利用するときの注意点に関する問題の正答率は93.6%と市と比較すると4.7ポイント高い。 ●コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考える問題については，66%と市と比べて0.2ポイント低い。	・記述式の問題の正答率が低いことから，資料で読み取ったことを考え，自分の言葉でまとめる等の活動を積極的に取り入れていく。
日本の政治	平均正答率は，市と比較すると0.5ポイント高い。 ○裁判の仕組みに関する問題の正答率は87.2%と市と比較して7.6ポイント高い。 ●日本国憲法の三原則に関する問題の正答率は，59.6%と市と比べて9.8ポイント低い。	・教材の工夫をしコロナ禍で体験的な学習が厳しい中であっても，一人一台端末等を活用して，児童自らの調べ学習が充実するように授業を展開していく。また，社会科用語を意味と実際の政治を結びつけながら理解を図る。
日本の歴史	平均正答率は，市と比較すると6.6ポイント低い。 ●飛鳥時代の出来事に関する問題の正答率は46.8%と市と比較して12ポイント低い。 ●元寇に関する問題の正答率は66%と市と比較して9.2ポイント低い。 ●武家諸法度に関する問題の正答率は42.6%と市と比較して11.8ポイント低い。	・歴史上の人物を中心に，時代背景を捉えさせ，関連した資料を丁寧に読み取って，自分の言葉で表現する活動を積極的に行っていく。 ・キーワード（歴史事象，人物名，文化等）を意識した授業の展開を図る。

宇都宮市立岡本小学校 第６学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	70.7	72.6	73.1
	図形	73.9	75.7	74.7
	変化と関係	75.2	73.6	66.1
	データの活用	65.6	69.2	70.7
観点別	知識・技能	73.9	75.5	74.4
	思考・判断・表現	64.3	66.5	67.2

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

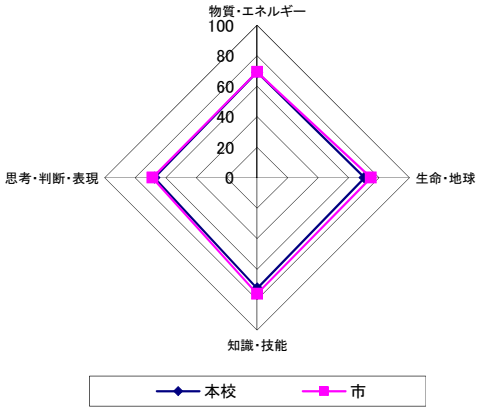
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	領域の平均正答率は市平均と比較して1．9ポイント、参考値と比較して2．4ポイント下回り，低い。 ○分数の計算はよく身についている。特に分数÷分数の計算は91．5%と正答率が高く，市平均よりも5.2ポイント，全国平均よりも3.1ポイント高い。 ●文字の式については57.4%正答率が低く，全国平均よりも13.1ポイント，市平均よりも4.5ポイント低い。 ●計算のしかたを説明することについては38.3%と正答率が低く，市平均よりも10.4ポイント，全国平均よりも14.9ポイント低い。	・ドリルやプリント・AI型個別ドリルなどに，計算の練習に繰り返し取り組み，基礎学力を定着させる。 ・様々な問題場面や状況に応じて，必要な数量やその関係を捉えることができるように，図や式に表して考えたり説明したりする機会を増やす。
図形	領域の平均正答率は市平均と比較して1.8ポイント，参考値と比較して0.8ポイント下回り，やや低い。 ○展開図については91.5%と正答率が高く，市平均よりも3.1ポイント，全国平均よりも1.0ポイント高い。 ●線対称については44.7%と正答率が低く，全国平均よりは0.8ポイント高いが，市平均よりは1.2ポイント低い。	・展開図の正答率が高いのは、学習時に展開図を描いたり見取ったりする活動を多く行ったことの成果と思われる。今後も継続したい。 ・線対称の正答率が低いのは、学習後、線対称を意識する機会が少なかったために記憶が定着しづらかったことが予想される。生活場面でも線対称を意識できるよう、算数ワールド「対称なデザイン」の学習内容を工夫したい。 ・具体物の操作やICTの活用などを取り入れ，図形のもつ特徴を視覚的に理解できるようにする。 ・図形の面積や対称な図形の学習では，なぜそのような考え方をしたのかなど，記述したり説明したりする場の工夫をする。
変化と関係	領域の平均正答率は市平均と比較して1.6ポイント，参考値と比較して9.1ポイント上回り，大幅に高い。 ○割合については91.5%と正答率が高く，市平均よりも0.9ポイント，全国平均よりも7.3ポイント高い。 ●速さについては46.8%と正答率が低く，市平均よりも10.1ポイント，全国平均よりも2.0ポイント低い。	・割合の正答率が高いのは、算数の他単元や他教科でも「半分=50%」を使用する機会が多かったためと思われる。今後も継続したい。 ・速さ，道のり，時間の関係と，求める式について再度確認し，問題場面に応じて，どの数量を求めるのか考えるような学習を取り入れていく。 ・速さでは、単位の換算につまずく児童が多く見受けられる。指導法を工夫すると共に、繰り返し指導してしっかりと身につけさせたい。
データの活用	領域の平均正答率は市平均と比較して3.6ポイント，参考値と比較して5.1ポイント下回り，大幅に低い。また，他領域の正答率が70%を超えているのに対し，本領域のみが65.6%と低い値を示している。 ○円グラフとドットプロットについては85.1%と正答率は概ね高い。円グラフは市平均よりは5.8ポイント低いが，全国平均とはほぼ同じ，ドットプロットは市平均よりも1.8ポイント，全国平均よりも4.3ポイント高い。 ●比較量を求めることについては34.0%と正答率が低く，市平均よりも5.5ポイント，全国平均よりも1.1ポイント低い。 ●代表値を使って説明することについては，市平均と同じではあったが，29.8と正答率は大変低い。	・円グラフの正答率が高いのは、他教科でも扱う機会が多かったためと思われる。ドットプロットは児童にとっては取り組みやすいデータ処理の方法らしく、楽しみながら学習できたためと思われる。今後も継続したい。 ・比較量を求めることの正答率が低い背景には、問題文を読んで数量関係を把握することの苦手さがうかがえる。算数では問題文を解く際に、数直線等を利用して数量関係を整理することの指導に力を入れたい。また、他教科の学習や読書指導を通して「読解力」の育成に努めたい。 ・代表値を使って説明することの正答率が低い背景には、自分の考えをまとめて表現することの苦手さがうかがえる。授業では、今まで以上に「説明する」学習に力を入れていきたい。 ・記述の問題では，誤回答と無回答を合わせると6割強の児童がいたことから，問題を把握することが困難だった可能性があるので，題意を的確に捉えられるよう，着目する点を焦点化した発問を工夫し，児童が問題解決したり意思決定したりする場を作り，主体的に学習とに取り組めるようにする。 ・下学年のうちから，教師が「比べる」・「整理する」など学習のつながりやキーワードを意識して教えていき，高学年で多面的にデータを分析・判断できる数学的な見方・考え方を養っていく。

宇都宮市立岡本小学校 第６学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.2	69.3	65.7
	生命・地球	70.5	74.7	77.8
観点別	知識・技能	72.6	76.2	76.4
	思考・判断・表現	67.4	68.7	68.6

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	領域別の平均正答率は69.2%で，市平均とほぼ同数である。 ○ふりこの１往復する時間の求め方について，誤差を考慮して実験を行うことを良く理解しており，ろ過の仕方についても大切なところを指摘することができている。これは，普段から実験の目的や手順をしっかり確認しながら授業を進めている成果が表われていると考えられる。 ●１往復する時間がいちばん短いふりこを指摘する設問では，市の正答率85.8%より7ポイント以上下回っている。 ◯ものの燃え方を答えさせる設問では，実験の注意事項や比較実験の内容を答えさせる設問は市の正答率より上回っている。 ●気体の性質や火が消えた理由を記述式で答えさせる設問では市の正答率より低い。 ●ものが水にとけて透明になった液の名前を問う問題の平均正答率は63.8%で，市の平均正答率と比較すると12.7ポイント下回っており，用語の習得に課題が見られる。	・実験の目的や手順を意識させながら授業を進めるとともに，過去の学習内容も機会を見て振り返らせ，学習内容の確実な定着を図る。 ・目的に沿った実験方法を考えたり，結果をまとめたりする際に，用語をキーワードとして利用しながら文を組み立てたり，掲示物やICT機器などを使って，五感を通して繰り返し理科の用語や学習内容を復習させたりしながら確実な定着を目指す。
生命・地球	領域の平均正答率は70.5%で，市平均より4.2ポイント低い。 ○唾液のはたらきを調べる対照実験の仕方をよく理解しており，条件を意識して実験を行っている成果と思われる。 ●月が輝いて見える理由や月の満ち欠けのモデル実験の方法を問う問題に課題が見られる。また，記述を要する問題の正答率が5割満たない。決められた条件を入れて，文章で説明することに課題が見られる。 ●動物の体のつくりとはたらきを読み取る設問では，すべての解答が市の正答率を下回っている。呼吸のはたらきにより空気と呼気とでの成分の違いを答えさせたり，石灰水の白濁が呼気によるものであることを確かめる対照実験をしたりする理解が不十分である。 ●月と太陽の設問すべてで，市の平均正答率を下回っている。月と太陽の位置関係から，時刻と月の形の見え方を推測する問題では，正答率が約63.8%である。	・動物の体のつくりとはたらきの単元では，児童に実験の目的を理解させた上での実験を行ったり，問題文を読み取るため，理科の用語の確認をしたり，理科の知識に加えて国語と連携を図ったりして読解力をつけるなどする必要がある。引き続き指導を継続していきたい。 ・月と太陽の設問では，太陽を中心として地球が回っていることを押さえさせたい。そのためには，動画を使って動きを立体的に再現するなどAV機器やAI技術の活用を通し五感を通した理解を深めさせたい。

宇都宮市立岡本小学校
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童が自分の学びに気付き，主体的に課題解決に向かう工夫	各教科で宇都宮モデルである「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業展開を行い，課題は何か，何をどのように学んだのかを意識した支援を行う。 また，児童の興味関心を高める導入を工夫し，課題解決の見通しを持って学習の取り組むことができる工夫をする。	「学校の授業がどの程度わかりますか」に対して肯定的に答えた児童の割合は，質問項目がある4学年のうち，3学年で90%を超えている。 「勉強していておもしろい，楽しいと思うことがある」に対する肯定的割合が，ほとんどの学年で市の肯定的割合を上回っている。上回っていない学年も肯定的に答えた児童の割合は，90.2%で高い割合を示している。
自信をもって学びに向かう児童の育成	自分の考えを言語化して交流することができるよう，学習形態を工夫したり，ICT機器を効果的に活用したりする。 また，授業の最後に，本時の授業におけるまとめや振り返りをしっかりと行う。	国語科において物語や説明文の内容を読み取る問題の正答率は市の平均正答率を上回っているが，互いの立場や意図を明確にしながら，計画的に話合いをする問題の正答率が低く，理解したことを表出することに課題が見られる。 社会科においては，資料など読み取ったことを活用することに課題が見られる。 「話合いに自分から進んで参加している」に対する肯定的割合は，5つの学年で市の肯定的割合を上回っている。上回っていないが学年でも肯定的に答えた児童の割合は，市と変わりない肯定的割合である。 「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」に対する肯定的割合が，4,5,6学年で市の平均の肯定的割合より上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

国・県・市における教科に関する調査から，各教科に関する共通する課題として，各教科の重要語句を使用して，文章で理由などを説明する問題や，長文や複数の資料の中から重要語句の意味を正しく捉えて考える問題，また，説明文の内容を捉え，要約するなどの正答率が平均より低い傾向がある。各学年，各教科で言葉の特徴やきまり，教科の重要語句に重点を置いた指導を行い，教科横断的に読む力を育てる。

国語辞典や漢字辞典，ICT機器などを活用し，語彙の意味を理解しながら読み，語彙の量を増やすとともに，重要語句を使った文章を書く活動を取り入れ，語彙の使い方を理解し語彙の質を高める。

「授業への取り組み」や「学習に対する気持ちや態度」についての質問に対する肯定的割合が市の平均と比べて高いものが多い，学ぶことへの意欲は高いので，各教科において課題設定を工夫し，課題解決学習を行い，分かる授業の展開に努める。また，今後も学習活動における学び合いを重視し，友達の考え方を通して，自らの考えをより具体的・客観的に捉えられるような機会を多く設け，学力の向上を図る。